

極樂寺ごくらくじの旧跡きゅうせきは宝塔寺ほうたふじ瑞光寺ずゐくわうじの境地なり。「大鏡に曰、深草天皇ふかくさ芹川せりかはにみゆきありし時、帝御寵愛の琴の爪を路次にて失ひ給ふ。昭宣公幼童の時なれども供奉し、爪のうせにし事を歎き、諸仏に祈りて曰、此爪を求る所には伽藍を建んと誓し給ふ。果して此里にて得給ひしかば、帝に上り、遂に極樂寺ごくらくじを創建ありしなり」

保胤やすたねが極樂寺ごくらくじの賦ひがしに、東山の勝地なり、象外の境壺中の天にして、巽には碧羅山へきらあり翠浪の湧が如く、谷水は玉虹の流をなす、山は小しといへども其勢千万仞の山に射が如し、飛泉あり、細しといへども其声遠境に聞ゆと書けり。「今の宝塔寺ほうたうじ七面山めんの景色を演るなり」